

令和5年度

教科書調査研究報告書

小学校

音楽

富士地区教科用図書採択連絡協議会

富士地区教科書研究委員会

I 調査研究対象教科書

発行者	書名	学年
17 教育出版	小学音楽 音楽のおくりもの	1～6年
27 教育芸術社	小学生の音楽	1～6年

II 調査研究の観点

1 内容

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、音楽表現をするために必要な技能を身に付けられる内容であるか。
- (2) 思いや意図をもって音楽表現を工夫することや、音楽のよさや面白さなどを見いだし、味わって聴き深めることができる内容であるか。
- (3) 音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うことができる内容であるか。

2 組織・配列・分量

- (1) 表現及び鑑賞の活動がバランスよく配置され、基礎的な内容が無理なく習得できるよう、系統的・発展的に組織されているか。
- (2) 児童が思考・判断し、主体的な音楽活動に取り組めるような工夫がされているか。
- (3) 豊かな情操を培う視点から、季節や日常生活、他教科等との関連を図るよう考慮して配列されているか。

3 児童の発達の段階への配慮

- (1) 児童の発達の段階及び生活経験や興味・関心にそって、多様な学習活動を進められるよう配慮されているか。
- (2) 楽譜、写真、挿絵、図表、色彩、文字の表記等について、発達の段階に応じて適切で分かりやすくなっており、学習意欲を高めるものになっているか。

別紙様式 2

種目名	音楽
-----	----

発行者 番号	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
略 称		
17 教出	音楽の おくりもの	<p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「音楽のもと」が見開きに示されており、児童が音楽的な見方・考え方を働かせながら主体的に学ぶことができる。 ・手や体を動かし音程やフレーズを確認して音楽を捉えたり、図形楽譜やオーケストラの楽譜を見て考えたりするなど、音楽を多面的、多角的に捉えるための工夫がされている。 ・日本の音楽や世界の音楽、また様々なジャンルの音楽について取り上げ、音楽の世界観を広く捉えられるよう構成されている。 ・二次元コードを読み取ると、動画や参考になる資料、虫の声、楽器、オーケストラ等の音源を見たり、聴いたりすることができるので、一人学びや家庭学習の手引きとしたり、全体で深く理解するために役立てたりすることができる。 <p><組織、配列、分量></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞で学んだことを歌唱や器楽、音楽づくりの学習に生かすことができる配列になっている。 ・他教科に関連する教材を取り上げている。 ・1曲で全音符から八分音符までを学習できる教材がある。旋律で音符の長さを感じることができるので、相互の関係を把握しやすく、理解が深まるよう工夫されている。 <p><児童の発達段階への配慮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習のめあて」や「まなびナビ」と、必要な情報だけが簡潔に示されているため、楽譜や文字の大きさが発達の段階に応じて配慮されている。 ・見開きの写真が大変美しく、曲や作曲家についての情報も記載されており、曲想を捉えやすいよう工夫されている。 ・リコーダーで新しい音を学習する際、二次元コードで運指や音程を確認でき、児童の参考になる。 ・「音楽を表すいろいろな言葉」が巻末に記載されていて、音楽を聴いて感じたことや、音楽を形づくっている要素を言葉で表すときに語彙を広げていくことができるよう工夫されている。 <p><総評></p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画や学習支援コンテンツが充実しているため、児童の音楽に対する見方が広がったり、理解が深まったりする。また、個別最適

		<p>な学びに効果的である。</p> <ul style="list-style-type: none">・見開きごとに示された「音楽のもと」を手掛かりに、音楽的な見方・考え方を働かせ、学びを深めることができる。・自然や歌詞の内容に沿った色鮮やかな写真や挿絵が、児童の感性を豊かにする。また、楽譜や文字の大きさが発達段階に適している。
--	--	--

別紙様式 2

種目名	音楽
-----	----

発行者 番号	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
略称		
27 教芸	小学生 の音楽	<p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方が例示された活動文を基に、児童が音楽的な見方・考え方を働かせながら音楽活動に取り組むことができる。学習指導要領の内容を着実に定着させるために、非常に適している。 ・生活音や絵を題材に音楽づくりに取り組んだり、リコーダーで身の回りの音を表現したりと、生活と音楽を関連させて学ぶことができるよう工夫されている。 ・音楽づくりを経験した後で、著作権について学習することで、情報モラルについて自分ごととして考えられるよう工夫されている。 ・各ページに記載されている二次元コードを読み取ると、全ての歌唱・器楽教材を聴いたり、曲の資料を読んだりすることができるため、児童の参考になり、曲の理解が深まると考えられる。 <p><組織、配列、分量></p> <ul style="list-style-type: none"> ・器楽の学習では、3年生で金管楽器、4年生で木管楽器、5年生で弦楽器を学習する。系統立てて学びを積み重ねられるよう、配列がよく工夫されている。 ・鑑賞で「感じたこと」「気づいたこと」を書き込めるようになっている。聴き取ったことや感じ取ったことと、音楽を形づくっている要素を関わらせながら、考えることができる。 <p><児童の発達段階への配慮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽づくり教材のコンテンツが非常に充実している。タブレットの画面で音符を動かして曲を作り、それを再生できるため、表現を工夫し、思いや意図を膨らめることができる。 ・鍵盤ハーモニカの学習では、指番号が示されたイラストが添えられているため、児童が確認しながら演奏できるよう配慮されている。 ・図形楽譜が、鑑賞でも歌唱でも掲載されており、学年が上がるにつれて楽譜に近付いている。耳で聴いた音楽を視覚で捉えやすい作りになっている。

	<p><総評></p> <ul style="list-style-type: none">・系統的な題材構成により、6年間の学びが積み重なり、学習指導要領の内容を着実に学ぶことができる。また、題材ごとに振り返りが示され、学びが深まったり、広がったりするよう工夫されている。・身の回りにある音や音楽を教材として取り上げていて、生活や社会の中にある音や音楽と、豊かにかかわる資質・能力を育成することに配慮されている。・題材のねらいに沿って、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の教材がバランスよく配置されているため、様々な活動を通して、題材のねらいに迫ることができるようになっている。
--	---